

WEEKLY SIGNAL

平成30年12月14日（金） 1454号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/17 (月)	12/18 (火)	12/19 (水)	12/20 (木)	12/21 (金)
無担保O/N	△0 . 0 8 6 % ～ 0 . 0 0 1 %				
銀行券	△ 1,700	△ 3,000	△ 4,000	△ 4,000	△ 5,000
財政他	+ 10,400	+ 5,000	△ 12,000	+ 74,000	△ 4,000
資金需給	+ 8,700	+ 2,000	△ 16,000	+ 70,000	△ 9,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債償還(2年)		国債発行(20年)	国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債償還(5年・10年)	
オベ期日	共通担保(全) △ 1,900 CP等買入 △ 400 補充供給 + 700				被災地支援 △ 100
オベスタート	共通担保(全) + 1,900 ETF買入 + 1,700 国債買入 + 7,000				
(日本)			日銀金融政策決定会合(1日目) 貿易収支(11月)	日銀金融政策決定会合(2日目) 日銀黒田総裁会見 全産業活動指数(10月)	消費者物価指数(全国、11月)
(海外)	米 NY連銀製造業景況指数(12月) 欧 ユーロ圏CPI(11月、改定値)	米 FOMC(1日目) 米 住宅着工件数(11月)	米 FOMC(2日目) 米 ハウエルFRB議長記者会見 米 経常収支(7-9月) 英 CPI(11月)	米 ファイデールフィア連銀製造業景況指数 (12月) 米 新規失業保険申請件数 (12月15日終了週) 英 金融政策会合	米 GDP(7-9月、確定値) 米 シカゴ大学消費者マインド'指数 (12月、確定値) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数 (12月、速報値) 英 GDP(7-9月、確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ～ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ～ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ～ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ～ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初376兆7,800億円から始まった。その後は国債買入オペや年金定時払いを主因に増加し、381兆6,600億円で越えた。無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.068%から始まった。積み期最終週であることから、日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが強まり、同金利は13日に△0.062%まで上昇した。積み最終日である14日は、新積み期間にかかることからビッドサイドは慎重な調達姿勢となり、同金利は△0.065%に低下した。ターム物は1W～2W物を中心に、主に△0.045%～△0.035%の水準で出が見られた。10日に日銀より公表された「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」によると、12月～2月積み期間の日銀当座預金のうちマクロ加算残高の算出に用いる基準比率は、前積み期から2.5%低下し、31.5%となった。同比率の見直しによる低下は、今回が初めてとなった。来週の主な予定は、国内では日銀による金融政策決定会合(19、20日)や、総務省による11月の全国消費者物価指数の公表(21日)などがあり、海外では米FOMC(18、19日)や、英中銀による金融政策会合(20日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.015 ～ 0.000
TDB 3M	△0.30 ～ △0.20
現先(on/1w)	△0.050 ～ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆2,500億円で、週間償還額(約1兆1,000億円)から増加した。発行市場は、5・10日発行やその他金融・電気機器からの大型発行案件が相次ぎ、活況であった。週末の発行残高は、先週末(20兆5,159億円)を上回り20兆6,000億円程度となった模様。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジであった。CP等買入オペが、11日に予定通り2,000億円オファーされた。旺盛なCP発行需要を背景にディーラーの在庫入替ニーズは一定量あり、按分レートは前回と変わらず△0.002%となった。来週の償還総額は約1兆1,500億円となっている。事業法人の資金需要は変わらず旺盛で、来週も活況なマーケットが予想される。発行レートは、投資家・ディーラーの購入ニーズは強く、引き続きマイナス～0%近辺での出合い中心と思われる。

<TDB>

14日入札の3M802回債は、最高落札レート△0.2010%(前回債△0.1675%)、平均落札レート△0.2125%(同△0.1753%)となり前回債からマイナス幅を拡大。良好な需給に支えられ堅調な結果となった。入札後のセカンダリー市場も強めに推移し、同3M物は△0.25%程度で出が見られた。来週は19日に1Y、21日には3M入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.085%～△0.09%から始まり、週央にかけて△0.08%近辺で推移した。新しい積み期間にかかる14日受渡しは、△0.15%～△0.16%近辺。17日受渡しは前場△0.10%台後半から出合いが付き始め、後場△0.20%近辺で多く取引された。SC取引では10年352回債のbidが多く、週前半は概ね△0.10%近辺。14日の国債買入れオペ後は△0.30%台前半の出合いが見られた。その他2年392・393・394・395回債、5年135・136・137回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351回債、20 年164・165・166回債、30年59・60回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。